

市民フォト PHOTO

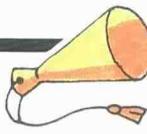
NO.64

# 鹿児島

特集

青春謳歌

市立三校



平成8年(1996年)4月1日発行  
鹿児島市広報課



# CONTENTS

## 市民フォト鹿児島 No.64

わがまち上空散歩	2
【特集】青春謡歌！市立三校	3
カメラトピックス	12
クローズアップ●竹田順数さん	14
学校探訪●星峯東小学校	16
ハロー鹿児島●アンドリュー・ローズさん	18
シティーアングル●異国の空気	19
わたしの好きな場所●宮原敬三さん	20
ふるさとの歴史探訪●常盤町（千眼寺跡）	22
よかタイム●徳留敬江さん	24
かごしまの自然●五ヶ別府周辺にて	25
市民ギャラリー●城西公民館	26
あなたのフォトサロン●入木田由美さん	28
集えは楽し●平成薩摩塾	30
市立美術館●二つの黒	31

### ●表紙写真説明

3月に新しいメインゲートが完成した平川動物公園。七色のアーチ型の門をくぐり抜けると、元気な動物たちの姿が目に飛び込んできた。

聞こえてくる子どもたちの歓声に誘われ、遊園地へと足を運んだ。子どもたちの笑顔が春の陽差しに輝いていた。

写真は、平川動物公園に遊びに来ていた子どもたち。

## 谷山インター上空から



写真手前に見えるのが、谷山インターインターチェンジである。このインターインターチェンジから

写真下方には指宿鹿児島インター線、そして右方には県道玉取迫鹿児島港線が延びる。

これらの道路の上に見える楕円状の二つの屋根の建物が、平成四年二月に供用を開始した南部斎場である。

写真中央右手には市営万田ヶ宇都墓地があり、その横にあるのが、御所下の市営住宅である。

写真中央を流れる永田川を越えると清和小があり、その奥には自由ヶ丘・希望ヶ丘、そして桜ヶ丘団地があり、錦江湾沿いには鴨池新町のビル群などが見える。

山の緑が豊かなインター付近と刈り入れの終わつた田園、そしてその先に広がる住宅街。たいへん印象的な風景である。





青 春

市立三校



謳 歌



鹿児島女子高等学校  
鹿児島商業高等学校  
鹿児島玉龍高等学校



# 鹿児島商業高等学校

創立：明治27年（1894年）10月1日

学科：商業・情報処理・国際経済



朝もやの中、鹿商坂を登る



平成6年10月、創立百周年を迎えて



一日のスタート



さらなる飛躍を目指して  
勤 労 誠 実  
二年 生 駒 哲 治  
二年 栄徳大輔くん書

紫雲たなびく桜島と対峙するかのよう  
に、坂元の高台に位置する鹿児島商業高  
校は、創立百と二年目を迎えました。商  
業高校は、「勤労・誠実」の校訓、「文武  
両道」のスローガンのもと、先輩方の伝  
統と実績のうえに「さらなる飛躍を」と、  
千余名の男子だけの生徒が頑張っています。  
昨年は野球部が七年ぶり、十三度目の  
夏の甲子園出場を果たし、旭川実業高校  
と大熱戦を演じたのは記憶に新しいとこ  
ろです。そのほか、多くの部が県、全国  
大会で好成績を残し、活気にあふれてい  
ます。また、「文」の方面は、時代の  
ニーズに応えようと、伝統の商業科に情  
報処理、国際経済の二科が増設され、諸  
検定はもちろん、就職、進学に高い合格  
率を示しています。  
百年の革袋に新しい水を注ごうと燃え  
ています。市民の皆さん、鹿商の今後の  
活躍に期待してください。

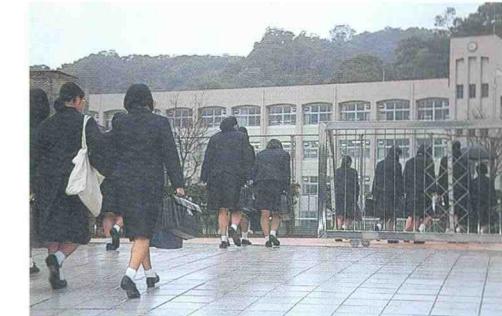
# 鹿児島女子高等学校

創立：明治27年（1894年）10月1日

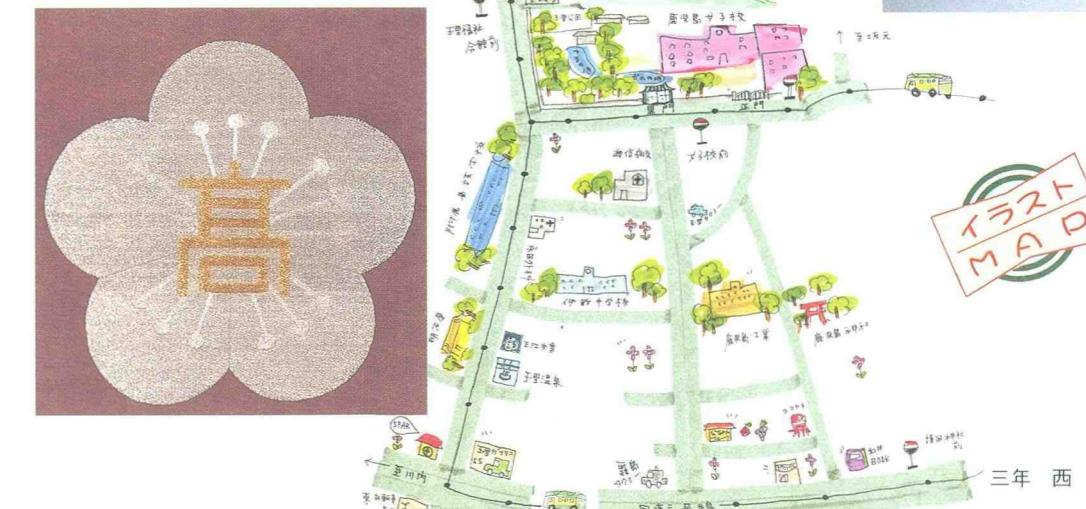
学科：商業・情報会計・生活科学



亀の池から校舎を望む



一日の課題を胸に



三年 西 愛子さん画

伝統を守り続けて  
勤労自治 清純理知 進取気魄  
三年 下永吉 さおり  
主美書

勤労自治 清純理知 進取気魄  
三年 鎌田圭美さん書

私たちの鹿児島女子高等学校は、一昨  
年、創立百周年を迎えた伝統ある学校で  
す。従来の学科に変わり、平成五年度か  
ら新たに生活科学科・商業科・情報会計  
科の三学科となりました。  
「勤労自治、清純理知、進取気魄」の  
校訓を掲げ、情操豊かな気品ある女性、  
地域社会に少しでも貢献できる女性に成  
長することを目指しています。また、本  
校では門礼、朝の黙想、無言作業を徹底  
して行っており、絶えず心身の鍛成に努  
めています。  
このような、他校ではあまり見られない  
特色のため高い就職率をほこり、卒業  
された多くの先輩方が活躍されています。  
これからも、今までの伝統を崩すこと  
なく守り続けていきたいと思っています。

5

# わたしたちの風景

それぞれの学校には、その学校ならではの風景があります。

朝日の中の風景、夕日を受け輝く風景、屋上から見渡す風景……。

在校生のみならず、数多くの卒業生もいろいろな気持ちで眺めてきた「わたしたちの風景」。

今も、学校を優しく包み込んでくれています。

## 親子で先輩・後輩

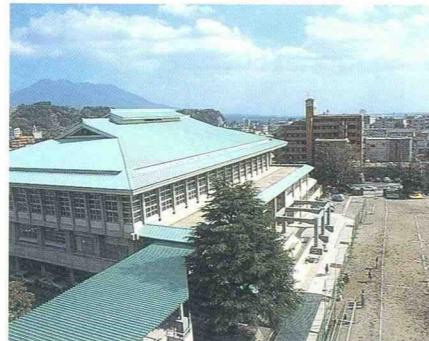
### ミニ コーナー

市立三校も歴史を重ね、親子で先輩・後輩となった方々もたくさんいらっしゃいます。そこで、わが子が同じ学校の後輩となった卒業生の方々にお話をうかがってみました。

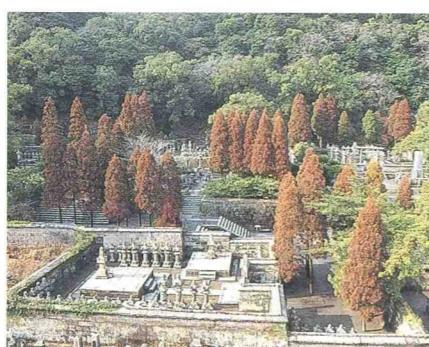
この学校で野球をやらせたくて、息子に商業高校進学を勧めました。生徒を大事にしてくれる先生方の伝統や学校の雰囲気は、私が通っていたこと何ら変わりませんが、生徒が先生に接するときの表情が少し明るくなっているような気がします。私の後輩となつた喬、このまま素直に育つてほしいと思います。

脇田厚一さん（昭和四十一年卒）と喬くん（三年生）

◆鹿児島商業高校



校舎屋上から桜島方面を望む=玉龍高=



玉里邸茶室付庭園=女子高=



校舎屋上から福昌寺跡を望む=玉龍高=



常安団地から校舎を望む=商業高=



校舎屋上から桜島・北ふ頭方面を望む=商業高=

玉龍高校への進学は、息子が自分で決めました。私と同じ高校を受験すると聞いたときはうれしかったですね。また、入学式で一緒に校門をくぐったときの感覚は、今でも忘れられません。先生と生徒、そして男子と女子が和気あいあいとしている校風は、昔と変りません。後輩となつた秀爾の成長を温かく見守つていいこうと思います。

娘は、女子高の合唱部に入りたくて進学を決めたようです。自分も通つた黒門を一緒にくぐるときには、うれしかったですね。今も昔と変わらず先生方の指導は熱心で、たいへんありがたく思っています。親子で女子高の話題で盛り上がるのもしばしば。社会人になつても女子高のよき伝統を引き継いで、頑張つてしまいと思います。

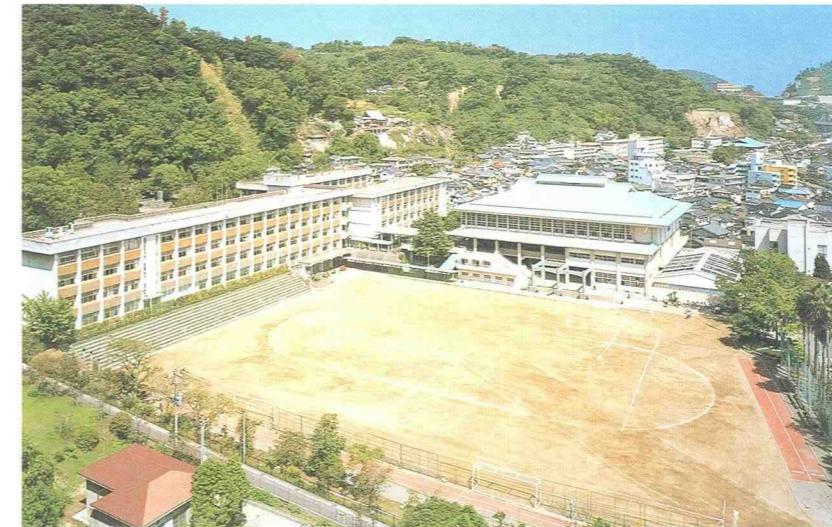
石崎徳子さん（昭和三十七年卒）と菜穂美さん（三年生）

◆鹿児島女子高校

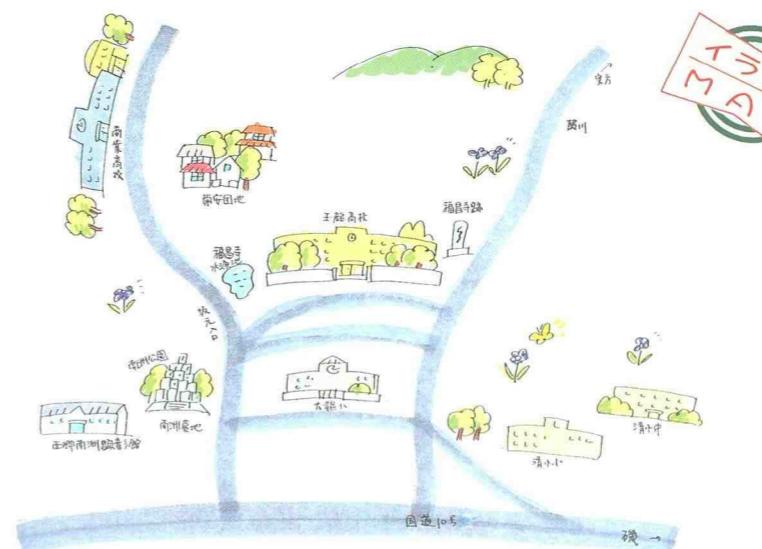
## 鹿児島玉龍高等学校

創立：昭和15年（1940年）4月1日

学科：普通



丘の上から学校を望む



玲瓏躍進 澄潔

三年 西室田理恵さん書

文武両道を目指して



三年 澤佳成

鹿児島玉龍高校は文武両道を目指し、みんなで部活動や勉強に励んでいます。生徒会活動もとても盛んで、文化祭・体育祭など生徒が主体となって活動し、とても盛り上がります。クラスマッチは、いつも真剣勝負。しかし、勝ち負けにはこだわらず、さわやかな顔ばかりです。独特な行事としては、五月に「勧学祭」という開校記念行事があり、その環境として校内弁論大会が開催されます。どの弁論も、とてもすばらしいものばかりです。かねて思つてゐることが発表され、みんなのやる気がとても強く伝わってきます。

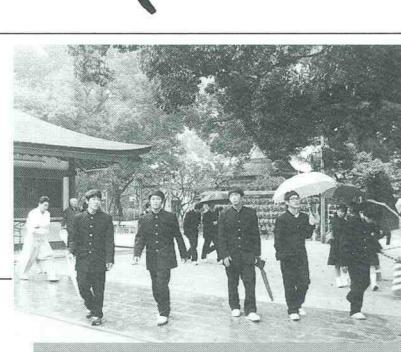
このように、玉龍高校は生徒会を中心にして、生徒が主体となつて何事にも取り組む、素晴らしい学校です。



# 春 夏 秋 冬

## 思い出アルバム

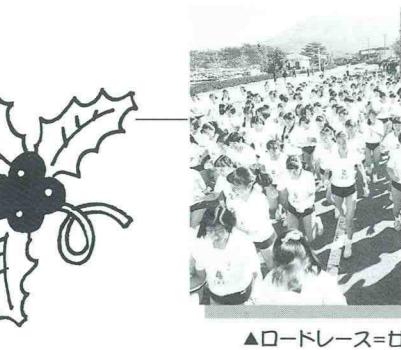
4月・・・新しい学年がスタートします。  
振り返ると昨年度もいろいろな行事、出来事がありました。  
ここでちょっと思い出アルバムをのぞいてみましょう・・・。



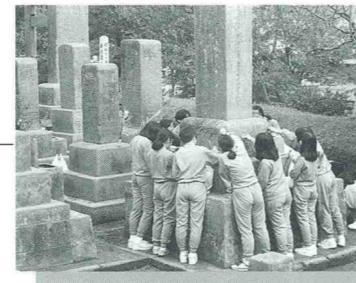
10



▲修学旅行（鎌倉にて）=廿子高=



12

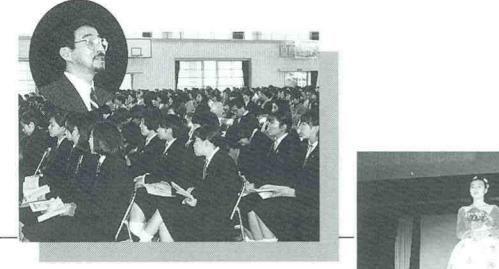


▲南洲墓地の清掃=玉龍高=

1



▲芸術鑑賞=商業高=



2



▲ロードレース大会=商業高=

3



▲エイズ講演会=商業高=



して4月。新入生が真新しい制服で各学校の門をくぐり、新学年がスタートします。

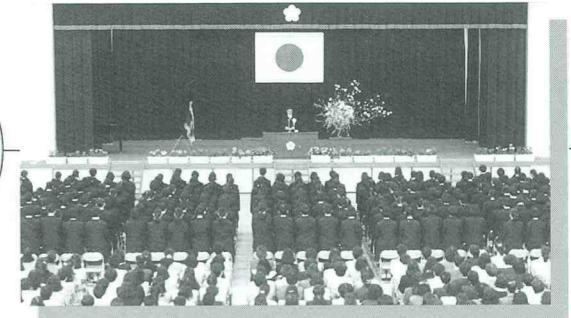


4



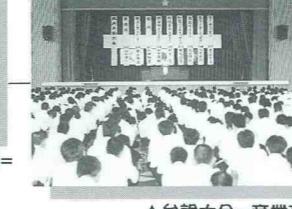
▲音楽コンクール=廿子高=

5



▲入学式=廿子高=

6



▲弁論大会=商業高=

7



▲校外実習=廿子高=

8



▲甲子園にて=商業高=

9



▲体育祭でのフォークダンス=玉龍高=



▲修学旅行（大韓民国・景福宮にて）=商業高=

# カメラ トピックス



▲2月1日～2日 鹿児島市にも久しぶりの大雪  
九州南部に強い寒気が流れ込み、久しぶりの大雪となりました。この雪のため交通機関など市民生活にも影響がでました。ここかごしま健康の森公園も一面の雪化粧。かわいい雪だるまが姿を現しました。



▲2月19日 平成8年度市一般会計当初予算（案）の市長記者発表

平成8年度市一般会計当初予算（案）の総額は、1781億6082万4千円。平成8年度も災害に強い防災都市づくりや中核市移行に伴う移譲事務・事業の円滑な推進、個性と魅力ある都市づくりなどに積極的に取り組みます。



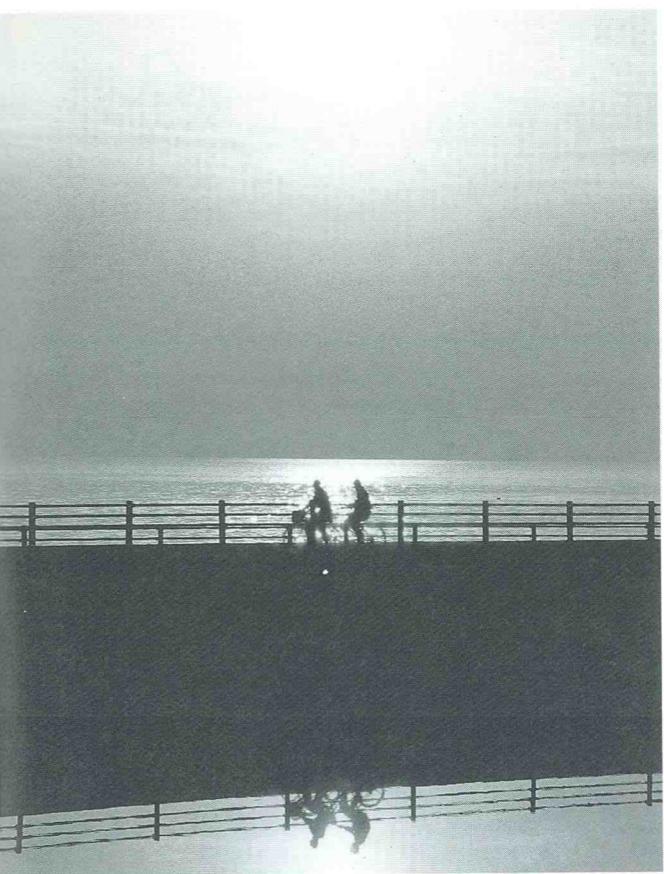
▲3月15日 春の木市開催（5月6日まで）

春の風物詩の一つとしておなじみの「春の木市」が、甲突川左岸緑地公園（市民広場）で開催されています。庭園樹や観葉植物などのほか、金魚や小鳥の店もあり、会場は春の一日を楽しむ多くの人にぎわっています。



▲1月15日 新成人のつどい

会場となった市民文化ホールではバンド演奏や抽選会などのアトラクションも行われ、真新しい振り袖姿の女性やスーツを着た男性など約5000人の新成人でにぎわいました。今年は、市内で約8500人の若者が大人の仲間入りをしました。



▲1月1日 平成8年 初日の出

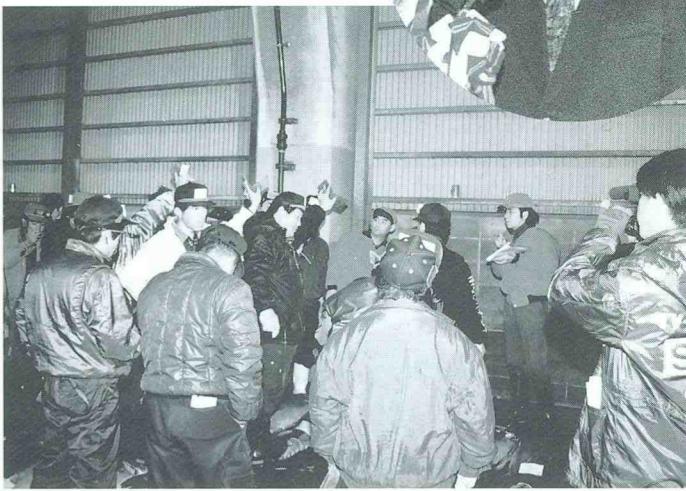
初日の出を見ようと、ここ与次郎ヶ浜の長水路にも人々が集まってきました。午前8時過ぎ、東の空にかかる雲の間から太陽が顔を出しました。4月に中核市鹿児島市が誕生する記念すべき年の幕開けです。



▲1月12日 桜島火山爆発総合防災訓練

昭和45年から始まったこの防災訓練も、今回で26回目を迎えました。約4200人が参加した今回は地震津波対策も盛り込まれ、本番さながらの緊迫した訓練が繰り広げられました。

# カメラ トピックス



▲1月5日 中央卸売市場初せり

赤崎市長が振る「振鈴」の音がせり場に響き、今年の取り引きがスタート。この日の魚類市場の入荷量は約80トン。水揚げされたマグロ、ブリなどが威勢のいいかけ声とともに、次々とせり落とされました。



▲1月9日 鹿実サッカー部全国高校サッカー選手権大会優勝報告

第74回全国高校サッカー選手権大会で見事日本一を勝ち取った鹿実イレブンが、優勝報告のために市役所を訪れました。前日に行われた雨中の決勝戦の疲れも見せず、全力を尽くした選手の顔は、みな晴々としていました。

一月八日、雨の東京・国立競技場。

鹿児島実業高校の全国高校サッカーリーグ選手権制覇は、テレビ棧敷の市民に年のはじめから明るい話題を提供した。

その瞬間の感想を、竹田順数監督は「こんなもので優勝していいのかな」という気持ちでした。何か足りないんですよ」と淡々と語る。「国立に進出（ベスト4）したら坊主になる」。選手との公約どおり、大会の後丸めた頭もだいぶ髪が伸びてきました。その頭のなかは、既に来年へ向けて選手強化への思いでいっぱいのようだ。

鹿実サッカー部は、引退した三年生を除き部員九十二人。三学年そろうと百四十人を超す大所帯となる。主にAチームをみる松沢隆司總監督の補佐役として、部全体を竹田監督が掌握する。

サッカーをやりたくて入部する生徒たちだが、部員の三分の一はボルト触る機会もありなく、マネジャーや審判として部活動を送っている。二年生になる段階で振り分けるのだが、つらい仕事だという。

血漢ぶりは変わらなかつた。すぐに大型自動車の運転免許を取得、マイクロバスを運転して各地へ遠征した。「今は相手がこちらへ来てくれるようになり、以前よりは楽になりました」と笑う。

それでも、朝六時二十分にバスで遠距離通学の部員を迎えて行き、七時から朝練習。そのまま教壇に立ち、午後は四時半から練習をみて、また部員を送って自宅に帰るのは毎日十時ごろ、というサッカー漬けの生活が今も続く。

家族は妻と男の子が二人。小学五年の長男は「A、Bにチーム分けするのにおかしい」とサッカーをやめてしまった。その考え方は監督も同じ。「小学校のころは楽しくボールに親しむことが大事。そうして選手のすそ野を広げることは、鹿児島のサッカーのレベルアップにつながる。息子もいつかまたサッカーを始めるかもしれませんし、今は何も言いません」とボツリ。父親の顔になつた。

# 鹿児島実業高校サッカーチーム監督 たけだ よりかず 竹田順数さん

1954年、鹿児島郡桜島町生まれ

1976年、千葉工業大学卒業

サラリーマン生活を経て、1982年母校鹿児島実業高校機械科教諭に。

1984年サッカーチームコーチ、1994年同部監督に就任。

# CLOSE UP

クローズアップ



大学時代、空手部でならした熱血漢が母校に帰つてサッカーチームになつた。生徒とともにボールを追つて十余年。全国の頂点に立つた今、監督としてさらなる飛躍を目指す。

（文／南日本新聞社

下栗淳也記者）

# 学校探訪

ひとみ輝き独り立ちできる

## 星峯東の子

すばらしい学校を  
目指して

樺田 世紀  
福森 一真

ぼくたちの通う星峯東小学校は、星ヶ峯ニュータウンの東側にあり、開校九年目の新しい学校です。歴史はまだ浅いのですが、児童一人ひとりが自分の目標をしっかりと持ち、毎日元気に過ごしています。

ぼくたちの学校の自慢はいくつかあります。特に次の三つのことを紹介します。

一つ目は、花いっぱいの学校です。先生方の指導をもとに、みんなでいっしょに苗を植えたり、水かけを行ったりしています。そのため、一年中、色とりどりの花が学校園、学級園に



### △輝くひとみ▽



着衣水着。  
洋服を着て水に入ると本当に重い。

近くの田んぼで稲刈り。日頃何一気なく食べているこはん。できるまでこんなに大変だとは……

国語の時間。  
みんなで考えるって楽しい。

## 星峯東小学校

- 創立：昭和63年
- 児童数：1,085人  
(平成8年3月1日現在)

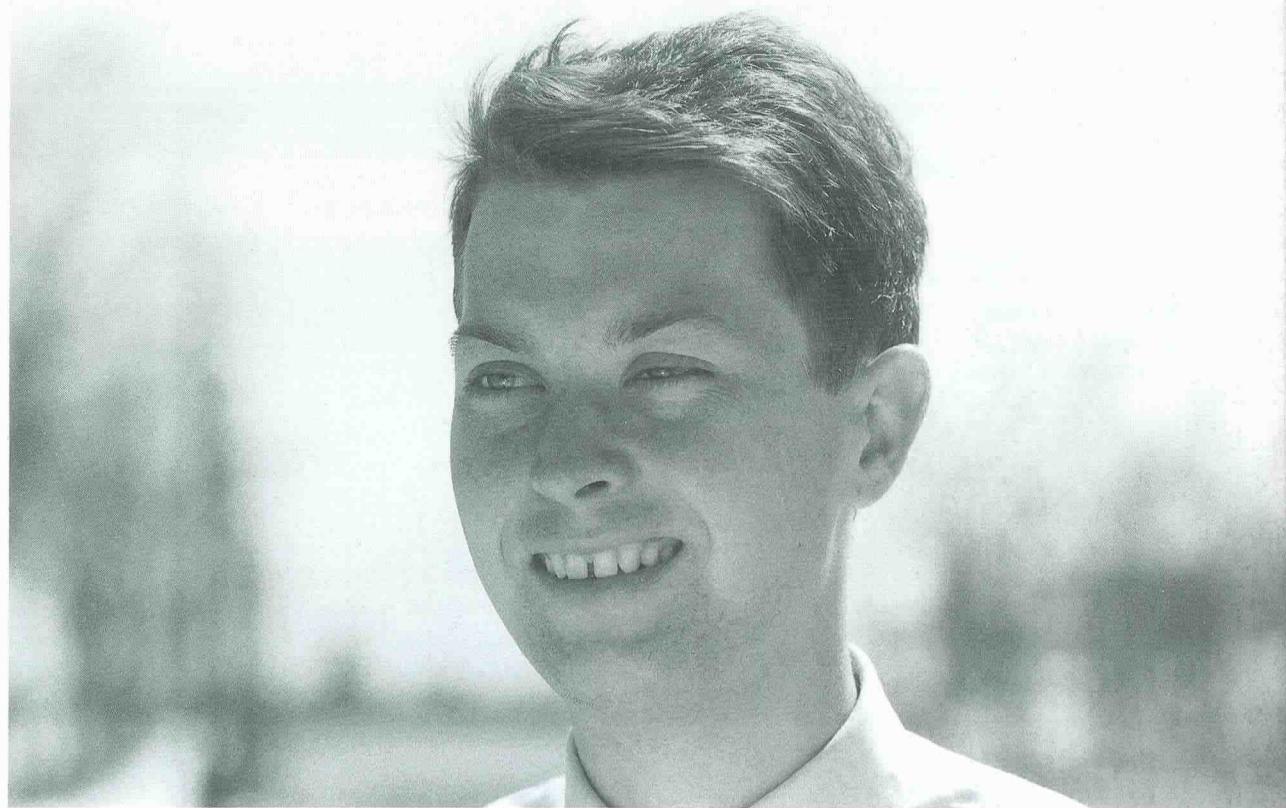


咲き乱れ、校庭のまわりの木の緑とうまくとけあって人々の目を楽しませてくれます。今は、パンジーやクリサンセマム、スイートアリッサムなどの花が咲きほこっています。二つ目は、スポーツや音楽が盛んです。少年団活動はもちろん、市の水泳記録会や陸上記録会などでは、輝かしい成績をおさめています。また、音楽では、合唱部の人たちが中心となり、市の音楽祭などで、すばらしい歌声を響かせてています。

三つ目は、委員会活動の充実です。全部で十四の委員会が、それ各自分たちの仕事内容をしっかりと決めて、お互いに協力して学校をよくしようと努力しています。

校訓は、「かしこく、やさしく、たくましく、独り立ちできる星峯東の子」です。そのことを常に頭の中に入れて活動しています。これからも、全員で協力し一年一年学校としての歴史を積み上げて、少しずつすばらしい学校づくりに努力し、「ひとみ輝き独り立ちできる星峯東の子」を目指してがんばっていきたいと思います。

# HELLO KAGOSHIMA



「本格的に日本語の勉強を始めたのは大学生のとき。英語とはまるで文法も違うし難しい。だから最初は嫌いだった。」と語るのは、本市と姉妹都市のパース市から来ているアンドリュー・ローズさん。

ところが、日本語を勉強するうちに、母国語の英語でなくとも自分の気持ちを伝えることができることに気付いた。この何かしら不思議だけど、いい気持ちが彼を日本語のとりこにし、いつか日本で仕事ができればと思うようになった。

21歳で大学を卒業し、日本のALT（外国語指導助手）に採用され来鹿、2年間の経験を買われて昨年7月からは本市の国際交流ア

ドバイザーとして、地域や学校での講演や英文ニュース・レター編集、国際交流活動への助言など、各方面で活躍している。

そんなアンドリューさんが思うのは、日本人と外国人、細かな違いはあるけれど、人間としての基本は皆一緒。親切で温かい鹿児島の人にもオーストラリアの自然や人情を知ってもらいたいということ。

鹿児島とオーストラリアの架け橋になりたいと願うアンドリューさん。7月までの任期の間、本来の仕事のほか、オーストラリアの紹介にも力を入れるそうです。

皆さんも話を聞いてみませんか。

**アンドリュー・ローズさん**  
(オーストラリア・パース市)

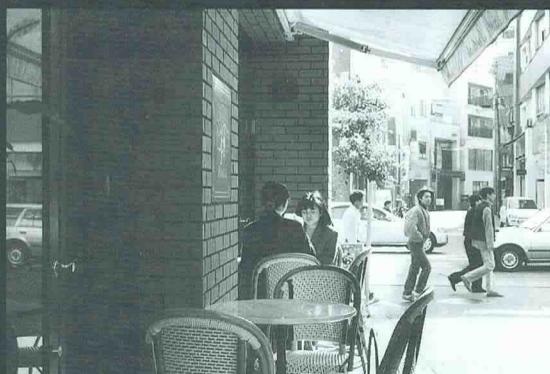


# CITY ANGLE シティーアングル

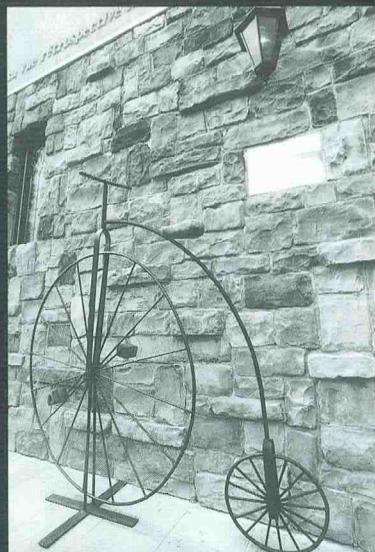


▲シャレたゲートがお出迎え

見なれた街中になぜかそこだけ  
“ちがう雰囲気”。  
和洋折衷、和製英語も飛び交う  
このごろだけど、  
やっぱり日本ではないものを  
感じる場所があります。



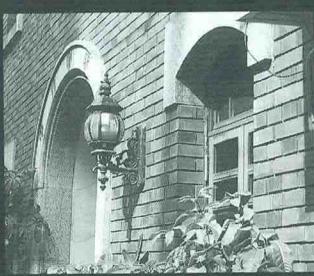
▲天気のいい日は外でティーブレイク



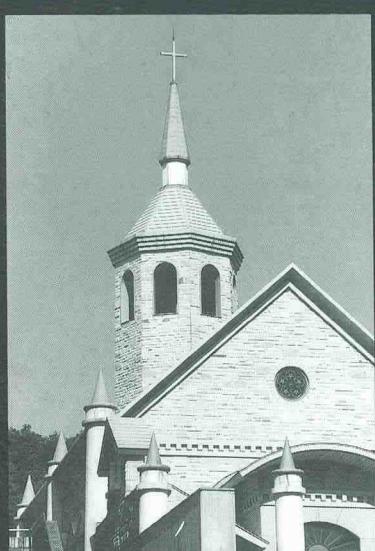
▲足ながおじさんの自転車



▲郵便局にリゾート地出現!?



▲コーヒーの香りが誘っています



▲祝福の鐘が聞こえる



▲海へ向かって、GO!



# わたしの 好きな場所

## 寺山（吉野町）

市立少年自然の家が主催する「吉野の春を楽しむ親子のつどい」の自然観察会のコースでもある寺山。起伏が少ないので、歩きやすく、植物観察には絶好的の場所です。

植物観察は地味な分野なので、子どもたちの関心も薄いようですが、草花を愛し、自然と触れ合うことで豊かな人間性を培うことができます。年々進む自然破壊や環境汚染のせいか、最近ツクシやタンポポなど、昔はどこにでも生えていた植物がとても少なくなっていますね。少年自然の家や夏休みの植物名付け会の講師をしていると、つくづくそう感します。この寺山周辺も昔はさまざまな種類の広葉樹が生い茂っていましたが、今では杉の木ばかりが増え、森の豊かな表情が乏しくなってきたのは残念ですね。土に深く根をはり、雨水をよく吸収する広葉樹のほうが、治水の面からみても好ましいんですが。

## 自然の懐に抱かれて

鹿児島市同和対策審議会会長 宮原 敬三さん



■道端でネズミノモチを発見。「この実を干して食せば、整腸薬になります」。～寺山



■「野鳥の声にも四季の移ろいを感じますね」。～寺山自然遊歩道の水源地

学生時代は南洲翁開墾地跡付近の畑でカライトモを植えたり、夏は夕方になるとこの遊歩道沿いの池で水浴びをしました。

今ではすっかり水枯れしていますが、あのころの池の水の心地よい冷たさと、耳をつんざくほどの蟬時雨。この道の脇に立つと懐かしさがこみあげてきます。

### 三重岳（皆与志町）

植物に興味を持つたのは、小学四年生のとき。

担任の先生が田んぼに連れていてくれ、シロツメクサやキツネノボタン、スズメノテツポウ、ヘビイチゴなど、いろんな草花の名前を教えてくれたのがきっかけでした。

草花っておもしろい名前がついているんだなあ。

高校の教諭となり、生徒たちに理科と農業を教えるようになつたのも、このときの感激した体験があつたからでしょう。

ここ三重岳から見る景色は、眼下に市街地、目前に桜島を望むことができ、今日のように晴れた日は開聞岳まで見渡せて気持ちがいいですね。

山頂付近に咲いている、ヒメヤブランの可憐な花などを観察するのも山を歩く楽しみの一つです。

自然にあるがままに咲いた草花。その野趣あふれる美しさとたくましさにひかれるものがありますね。降り注ぐ太陽の光を浴び、柔らかで暖かい大地にじかに触れる――。

こうして山野を訪ね、静かにその環境のなかに身を置くと、健康のエネルギーは自然から授かっているんだなあという喜びを実感します。

### ●取材メモ

市同和対策審議会の会長は、植物を愛するナチュラリストである。

時折、冷たい北風が吹く取材当日も年齢を感じさせないしっかりと足取りで坂道を登る。

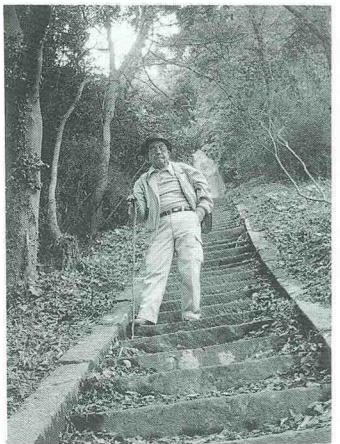
珍しい植物があると小型のシャベルで愛用の胴乱に採集する。

「採集よりも、新聞紙で何回も乾かし台紙に張る保存作業までが大変。この工程をうまくやらないと二、三年でぼろぼろになるんですよ」。

日本の植物分類学の神様と言われた牧野富太郎博士を敬愛し、新種の植物の発見が夢でもある。

趣味は園芸。暇を見つけては、家の裏にある畑で野菜づくりに精を出す。

昨年の六月まで鹿児島県人権擁護委員連合会の会長として活躍。平成三年十月より市同和対策審議会会長をつとめる。吉野町在住。七十六歳。



■森林浴でリフレッシュ。「森は生きている。ときどきそう感じます」。～寺山



■手慣れた手つきで植物観察。「この草は、スズメノヤリ。雄花から雌花へ変化するおもしろい種類です」。～三重岳

市同和対策審議会の会長は、植物を愛するナチュラリストである。

時折、冷たい北風が吹く取材当日も年齢を感じさせないしっかりと足取りで坂道を登る。

珍しい植物があると小型のシャベルで愛用の胴乱に採集する。

「採集よりも、新聞紙で何回も乾かし台紙に張る保存作業までが大変。この工程をうまくやらないと二、三年でぼろぼろになるんですよ」。

日本の植物分類学の神様と言われた牧野富太郎博士を敬愛し、新種の植物の発見が夢でもある。

趣味は園芸。暇を見つけては、家の裏にある畑で野菜づくりに精を出す。

昨年の六月まで鹿児島県人権擁護委員連合会の会長として活躍。平成三年十月より市同和対策審議会会長をつとめる。吉野町在住。七十六歳。

# 歴史 ふるさとの 探訪

# 薩英戦争の本陣となった千眼寺跡

## 鹿児島市常盤町



鬼瓦文



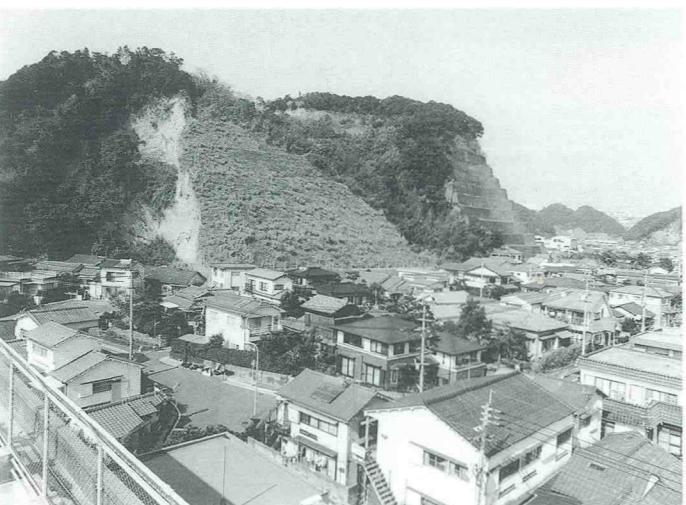
古井戸

十四年間勤めた。嘉永三年（一八五〇年）六十歳で亡くなつたので、  
眞岩などが塔を智福院の東に建て  
た」と刻まれている。和尚塔は、  
米倉氏によつて厚く守られてゐる。  
また、米倉氏宅の裏に「古井戸」  
が残つており、近くの井上雅弘氏宅  
の前庭には、千眼寺のものと思わ  
れる「元文鬼瓦」が残つてゐる。  
さらに、裏山に「當寺重興開山  
若<sup>いすか</sup>盈<sup>ゆう</sup>大和尚<sup>おおこうそう</sup>之塔」<sup>のとう</sup>「文化四年  
丁卯五月拾三日」と刻まれた大き  
な卵塔が残つていたが、先年の災  
害で崩落したらしく確認できない。

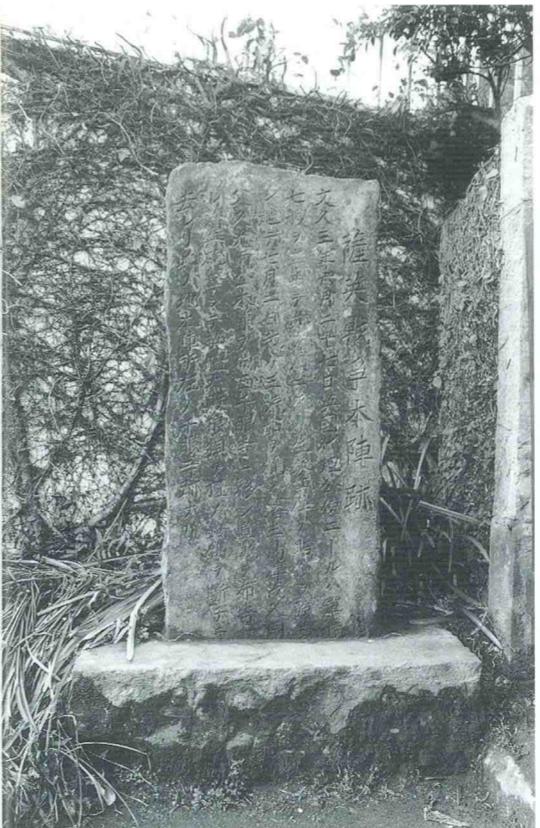
がある。さらにその上の山頂に「雄風亭記」の碑がある。三国名勝団会によると「この付近は尾畠と呼ばれ、磯と競う名勝地である。この地は山を背負い、水に臨み、景色が奥深く物静かな所で、前方の田野は、四季折々の風情があり、ことに、この辺りは桜の木が多く、春は満開の桜花、夏は乱舞する螢、秋は紅葉、冬は寒鳥の鳴声を楽しむ遊覧の地である」と記されている。雄風亭記は天明七年（一七八七年）当時の藩校造士館教授山本



雄風亭記の碑



千眼寺跡を望む（西田小学校校舎屋上より）



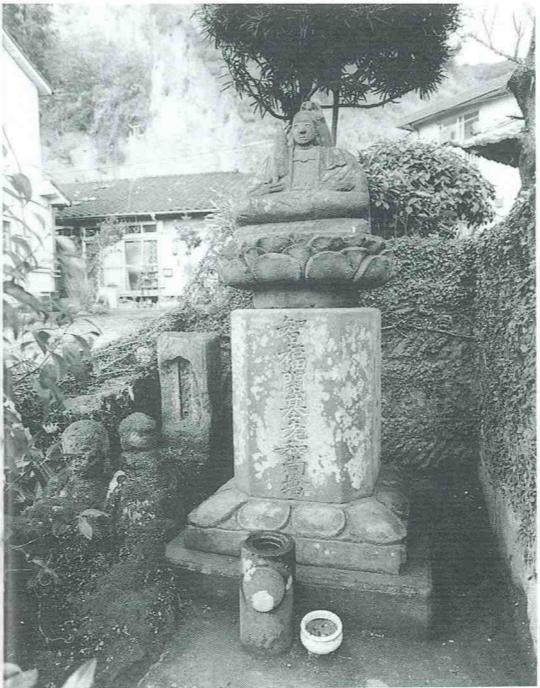
薩英戦争本陣跡の碑



西田の田の神

西田小学校裏、薬師二丁目の武守氏宅裏の道路沿いに、西田の田の神がある。背面に「安永二日」正月十六日、奉供養。西田二才中庚申講」と刻まれていることから、江戸時代の中ごろ、西田村の青年たちによつて庚申供養のために建てられたものであろう。田の神が庚申信仰と結びついていることを表し、像が写実的で力強いことをから、昭和五十七年、市の民俗文化財に指定された。

寺禄は三百石であった」と記されている。生麦事件がもとで文久三年（一八六三年）薩英戦争となつた。島津久光・忠義親子はイギリス艦隊の砲撃を避け、千眼寺を本陣として戦争の指揮をとつた。明治二年（一八六九年）の廃仏毀釈（仏教禁止の運動）によつて千眼寺は荒廃された。



智福開基老和尚塔

西田小学校裏、薬師二丁目の武守氏宅裏の道路沿いに、西田の田の神がある。背面に「安永一巳正月十六日、奉供養」西田二才中庚申講と刻まれていることから、江戸時代の中ごろ、西田村の青年たちによつて庚申供養のために建てられたものであろう。田の神が庚申信仰と結びついていることを表し、像が写実的で力強いことから、昭和五十七年、市の民俗文化財に指定された。

その田の神のすぐ近くに、黄檗宗万徳山千眼寺跡がある。三国名勝図会によると「千眼寺は京都宇治の黄檗山万福寺の末寺で、島津重豪が文化二年（一八〇五年）江戸瑞聖寺の若仲を開山として再興した。天保十一年（一八四〇年）には寺地が広げられ、

現在、常盤町の米倉猛氏宅の一角に「薩英戦争本陣跡」の碑が建つてゐる。その奥に「智福開基老和尚塔」と刻まれた塔の上に和尚の石像がある。塔の背面に「和尚の名は如雲・紫石といい、周防州（山口県）の出身で二十四歳のとき、島津重豪に請われて了一性寺を開基し、住持を二十二年間勤めた。そして天保八年（一八三七年）千眼寺住持となり

寺禄は三百石であった」と記されている。生麦事件がもとで文久三年（一八六三年）薩英戦争となつた。島津久光・忠義親子はイギリス艦隊の砲撃を避け、千眼寺を本陣として戦争の指揮をとつた。明治二年（一八六九年）の廃仏毀釈（仏教禁止の運動）によつて千眼寺は壊された。

# 手づくり装飾品

とくどめ 德留 よしえ 敬江さん (紫原三丁目)



## よかタイム7つの質問



かわいらしい人形、材料は何ですか?  
小さいほうが厚紙とコ一ヒー豆の麻袋、大きなほうはウイスキー やサイダーの空きビンに着物を着せた人形です。

A Q1

かわいらしい人形、材料は何ですか?  
小さいほうが厚紙とコ一ヒー豆の麻袋、大きなほうはウイスキー やサイダーの空きビンに着物を着せた人形です。

A Q2

材料は廃品利用ですか?

ほとんどがそうです。できるだけ身の周りにあるものを工夫して使いますので、材料費はほとんどかかりません。

A Q3

つくり始めたきっかけは?

子どものころからお菓子の包み紙や箱などで、ちょっとした小物をつくるのが好きでした。4人の子どもの子育てが一段落した10年ほど前から、こうした装飾品をつくるようになりました。

A Q4

ひな人形を毎年つくつているそうですね?

写真にあるように大豆と和菓子の包装紙などでつくっています。つくり始めて5年で、今年は3段飾りをつくりました。来年は5段飾りをと考えています。

A Q5

つくりつていて思うことは?

つくりつていて思うことは? ちよつとしたアイデアやヒントで簡単にできます。不器用だからとあきらめてしまわず、身の周りのものを使って何かつくってみませんか。

A Q6

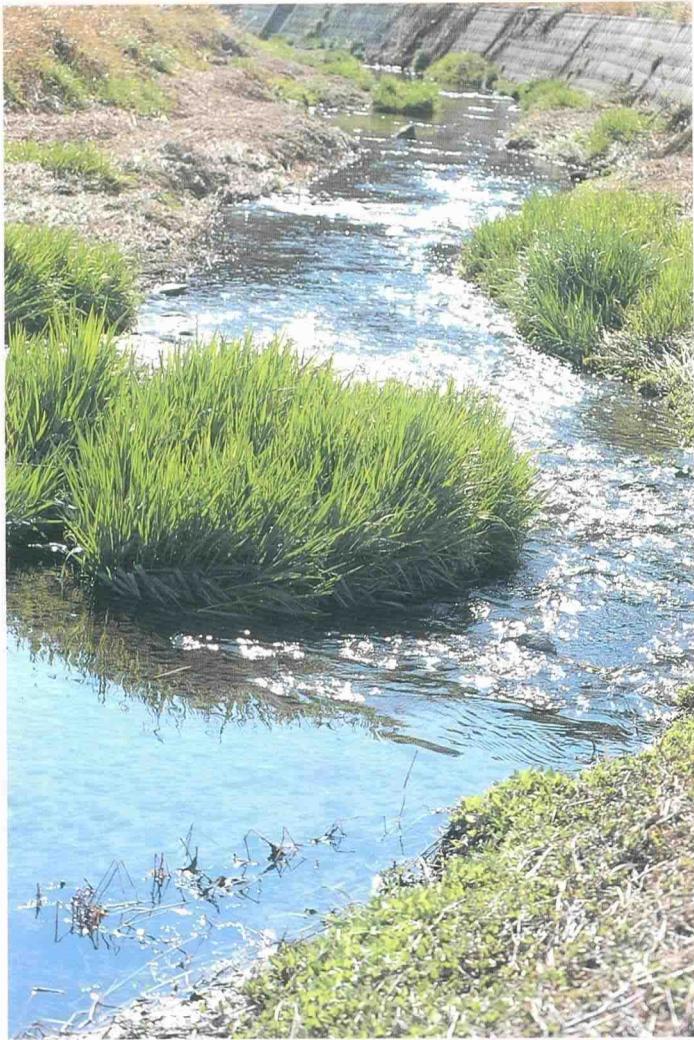
これから始める人へ一言

ちよつとしたアイデアやヒントで簡単にできます。不器用だからとあきらめてしまわず、身の周りのものを使って何かつくってみませんか。

「つくり手の心が伝わってくるようなあなたかい作品が好き。」と話す德留さん。毎日の生活の中から見つけたアイデアで、新しいものにどんどんチャレンジしてくださいね。

この他にはどんなものを作?

刺しゅう、パッチワーク、ちぎり絵、籐細工、人形などを友人と互いに教え合いながらつくっています。



# かごしまの自然

## 五ヶ別府周辺にて

～早春の風景～

陽光が優しく大地にそそぎます。  
木々は芽吹き、せせらぎの水も温みます。  
季節は巡る。  
春ほど自然の営みの規則性を  
感じるときはありません。



# 市民ギャラリー

● 城西公民館・自主学習グループ ●

みんなで学ぶって楽しいですね。

今回は、城西公民館の自主学習グループで、水彩画「城彩会」と「折り紙同好会」の皆さん的作品を紹介します。

水彩画「城彩会」は、本田光志先生を中心、毎月第二・四曜日に活動して

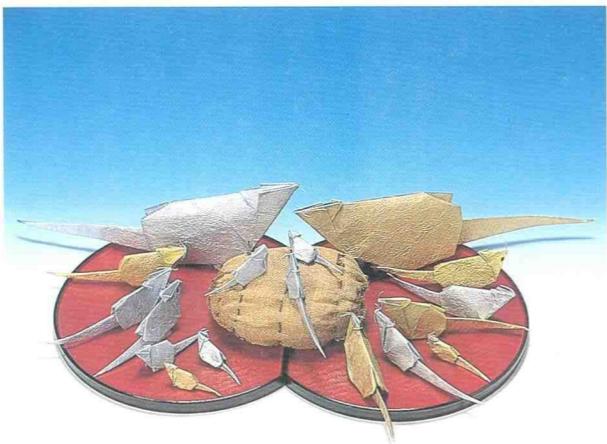
います。平成六年から活動を始め、現在のメンバーは八人。

「キャンパスに向かう前に、まず、全員で会場のそろじをします。絵の上達だけでなく、全てをみんなで協力してやっていくという雰囲気を大事にしています。」

「折り紙同好会」は九万田侑子先生を中心に、毎月火曜日に活動しています。平成六年から活動を始め、現在のメンバーは十七人。「折り紙つて不思議なもので、折つていくうちに、自分でも想像のつかないものが出来上がります。折る度に夢が広がっていく、そんな喜びがあるんです。」

両グループとも、生涯學習フェスティバルや城西地域総合文化祭への出展など、文化の振興に積極的に取り組んでいます。クラブ活動について語る皆さんの目は生き生きとして輝いて見えました。両グループの皆さん的作品をゆっくりとご覧ください。

## GALLERY

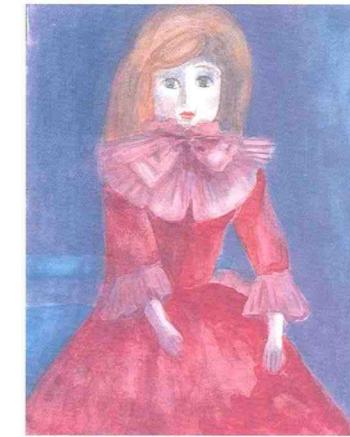


四季の折り紙

川森吉山勝田  
越崎王中  
越中  
サチ子さん  
あつ子さん  
久総美千代さん  
小夜さん  
板森南之園保田  
山南久脇松  
山宇竹下  
仙田山都下笠  
キクノさん  
千賀子さん  
トサワ子さん  
千鶴子さん  
千メ子さん  
ト治律利  
子子さん  
子子さん  
子子さん  
子子さん  
ト節ム



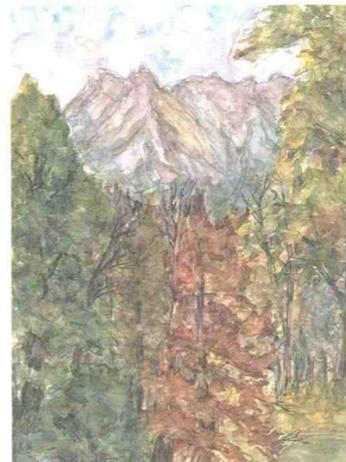
「ばら」片平美由紀さん



「人形」中園登与子さん



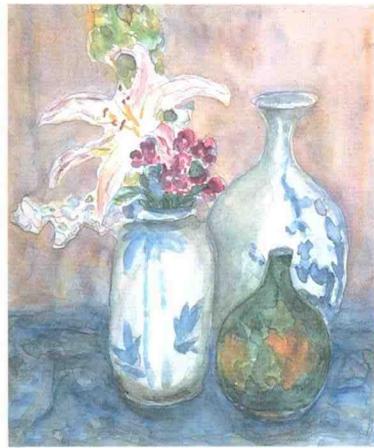
「月下美人」本田延子さん



「健康の森公園から」水谷良子さん



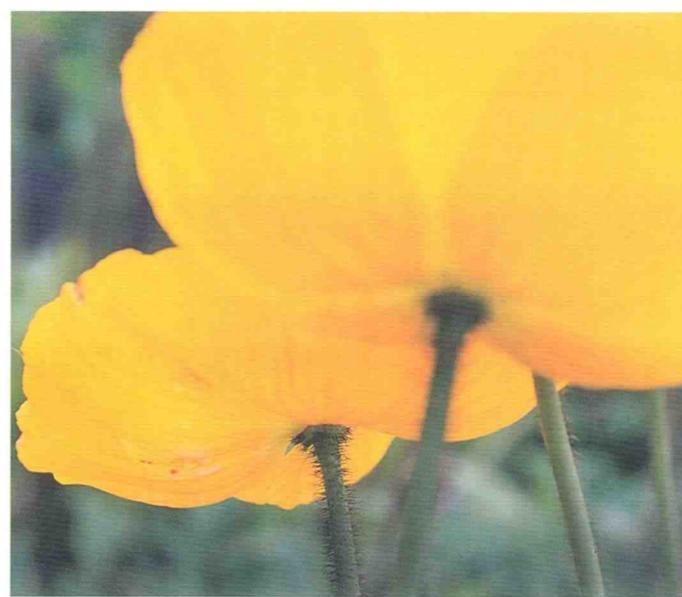
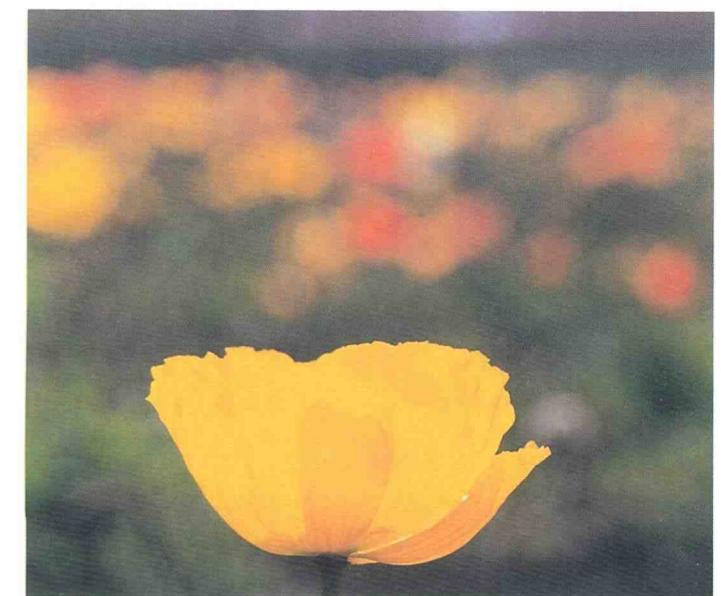
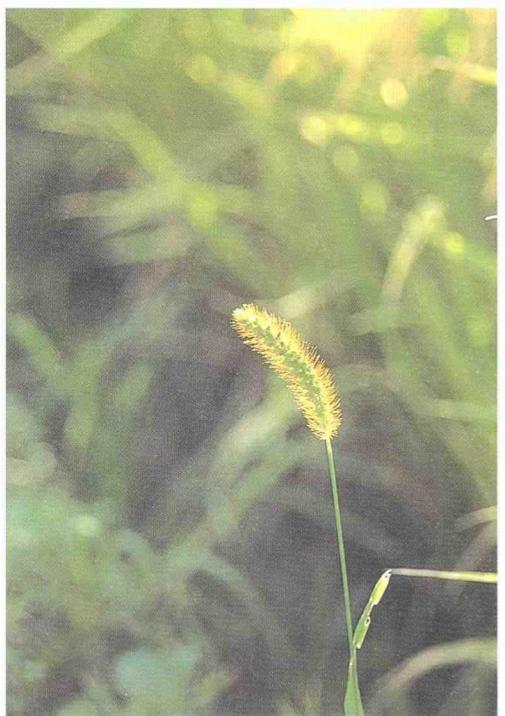
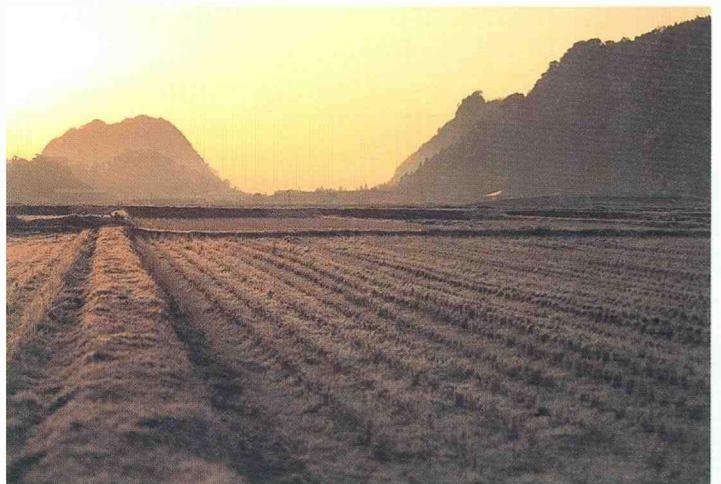
「港」上原正行さん



「つぼと花」高岡辰夫さん

# あなたのフォトサロン

写真；入木田 由美さん





## 九州からアジアへ 広げよう 異業種交流の輪

平成6年6月。21世紀の九州を担う人材育成を目的に開催された「九州平成義塾」に鹿児島から参加したメンバーが中心となって誕生した「平成薩摩塾」。

地域おこしや情報ネットワークづくりに問題意識を持つ人たちが集い、年々その活動は充実の一途をたどっている。

塾生は50人。22歳から67歳までと、年齢層は幅広い。職業も社会人はもとより、学生や主婦、会社のオーナーなどバラエティーに富んでいる。

月1回の例会では、それぞれが異業種交流ならではの自由なテーマで発表。夜遅くまで、ディスカッションで盛り上がるのもしばしばだという。もちろん机上による意見交換だけが塾の活動ではない。アジアなどから来た海外技術研修青年たちとの交流やおはら祭への参加、吹上浜砂の祭典での砂像の制作、またさまざまなボランティア活動などを通じて、自己啓発に努めている。

「九州に7つある義塾のなかでは、うちが一番活動が活発です。

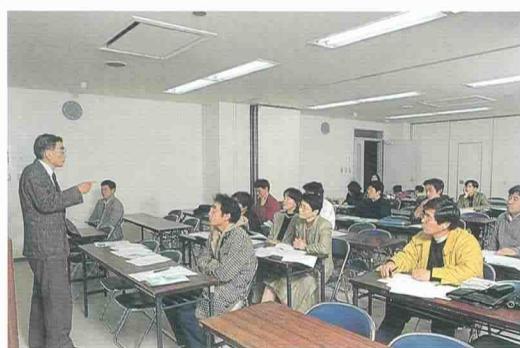
今年は、ここ鹿児島から九州へアジアへ広げるネットワークづくりがテーマ。自分の殻を破って何か行動を起こしたい人はどしどし入会して“議”を言ってください」と会長の中島宗弘さん。

大人の『塾通い』。皆さんも始めてみませんか。  
(問い合わせは中島さん=225-8658へ)



### サークル紹介

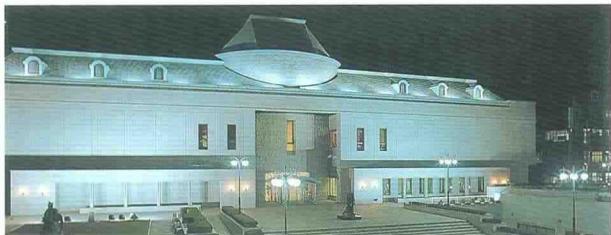
#### 「平成薩摩塾」



# 市立美術館

## 「二つの黒」

(1941年)  
材質：油彩・キャンバス  
サイズ：116.0×81.0cm (タテ×ヨコ)



## ワシリー・カンディンスキー (1866~1944年)

### 〔作者〕

モスクワの裕福な茶商人の家庭に生まれる。父はモンゴル貴族の血を引いており、カンディンスキー自身、自分の中の東洋の血について言及している。8歳ごろから素描と音楽を学び、音楽はカンディンスキーが抽象絵画へ到達する、大きな原動力のひとつとなった。

1896年「フランス美術展」で、モネの「積わら」を見て画家転向を決意。また、アトリエで横倒しになっていた自分の作品に啓示を受け、何が描かれているかわからなくても、色と形だけで十分に自立できる絵画、つまり抽象絵画を目指とするようになる。1910年ごろ、水彩画によってそれを達成。

1912年、美術誌『青騎士』、芸術論集『芸術における精神的なもの』、詩画集『響き』などの制作、刊行により、ドイツ表現主義を代表する作家となる。1922年、第一次大戦中に帰郷していたモスクワからドイツへ戻り、バウハウスの教授として後進の指導にあたった。そして、代表的版画集『小さな世界』を刊行。抽象絵画の第一人者として頭角を現す。

1933年ベルリンのバウハウスが閉鎖され、パリへ移住。洗練された画面の中に、生命形態が浮遊する晩年の成熟期を迎える。1944年12月13日逝去。享年78歳。

### 解説

この二十世紀最大の巨匠の一人を紹介するにあたって、抽象絵画の創始者という取りつきにくさを緩和する意味で、唐突ではあるが、鹿児島にとつて最もゆかりの深い黒田清輝と比較してみようと思う。

黒田がフランスから持ち帰った油絵の写実力に日本人が驚嘆していた時代に、本場ヨーロッパでは既に写実を否定した抽象が誕生していたといふ、背景の格差はひとまず置くとして。

二人は同じ一八六六(慶應二年)に生まれ、同じく法曹の道を志す。このことで培われた理詰めの性分は、自らの制作、後進の指導などに大いに役立ったと思われる。また二人とも印象派絵画との出会い

では、二人の一番の相違点は、何か。帰国後の黒田が順風満帆たる歩みを続けたのにに対し、カンディンスキーの方は、革命と二つの大戦の中で、故郷ロシア、生活の地ドイツを離れ、歴史にほんろうされながら、自分の芸術のために戦わざるを得なかつたというこ

とだろうか。では二人の一番の相違点は、何か。帰国後の黒田が順風満帆たる歩みを続けたのにに対し、カンディンスキーの方は、革命と二つの大戦の中で、故郷ロシア、生活の地ドイツを離れ、歴史にほんろうされながら、自分の芸術のために戦わざるを得なかつたというこ

市立美術館 学芸員  
谷口 雄三

# 鹿児島市は、平成8年4月1日 最初の中核市としてスタート!!

## 中核市は何をするの？

中核市になると、これまで県で行っていた事務のうち、福祉や保健衛生・環境、都市計画など市民の皆さんのが生活に関わりの深い多くの事務を、中核市自らの責任と権限において、処理することができるようになります。主な事務に次のようなものがあります。



お問い合わせ  
鹿児島市 人事課

〒892 鹿児島市山下町11番1号  
☎099-224-1111